

(第1号様式)

## プロジェクト登録申請書兼Jブルークレジット®認証申請書

ジャパンブルーエコノミー技術研究組合 御中

(代表申請者) 江井ヶ島漁業協同組合  
住所：兵庫県明石市大久保町江井島418-6  
氏名：代表理事組合長 橋本 幹也 ㊟  
法人番号：4140005005464

(共同申請者) 東洋建設株式会社大阪本店  
住所：大阪府大阪市中央区高麗橋4丁目1番1号  
氏名：常務執行役員大阪本店長 本杉 成美 ㊟  
法人番号：9120001077496

(共同申請者) 特定非営利活動法人アマモ種子バンク住  
所：兵庫県西宮市鳴尾浜1丁目1番8号氏  
名：理事長 出口 一郎 ㊟  
法人番号：5140005016295

Jブルークレジット制度実施要領の規程に基づき、次のとおりプロジェクト登録兼クレジットの認証を申請します。

|          |  |
|----------|--|
| プロジェクト番号 | 202211JBCA00019                            |
| プロジェクト名称 | 明石市江井島周辺を中心とした藻場造成<br>「アマモは海のゆりかごだ!」プロジェクト |

|                             |  |
|-----------------------------|--|
| <p>プロジェクト区分<br/>(複数選択可)</p> | <p>自然基盤<br/>吸収源の新たな創出</p>  |
| <p>プロジェクト概要</p>             | <p>○プロジェクト内容<br/>本プロジェクトは、兵庫県明石市の東播海岸にあり、1980年代終わりに養浜された江井島海岸と谷八木地先を中心に、CO2吸収源の回復や拡大を目的として、以下の活動を実施している。<br/>江井ヶ島漁業協同組合（以下、江井ヶ島漁協）では、水産資源の回復や海域環境の保全のため、海底ゴミ・浮遊ゴミの回収、砂浜・港湾清掃等を長年実施している。小学校への出前授業である地引網によるアマモ場周辺の生物調査時に、アマモの食害生物（アイゴ等）を駆除してアマモ場の保全を図っている。NPOアマモ種子バンクでは、2011年より江井ヶ島漁協の協力の元、江井島海岸で採取したアマモの種子を養生保存し、ルール※）に則り希望者に提供して、各所のアマモ場の創出に寄与している。また、地引網によるアマモ場の生息生物の四季調査も実施しており、アマモの食害生物を駆除している。<br/>東洋建設株式会社では、2001年11月にアマモが点在していた谷八木地先の被度0の区画で播種によるアマモ場造成を実施した。その後の継続調査を江井ヶ島漁協、NPOアマモ種子バンクと協力して実施し、アマモ場面積の拡大を確認してきた。2011年以降は、江井ヶ島漁協所属の漁師を中心に、漁業をする傍らアマモの生育状況、漁獲高による生息生物の確認を続けている。<br/>更に2022年12月には東播海岸で比較的アマモが少ない魚住地先で、播種による新たなアマモ場の創出を図っている。<br/>※）藻場の復元に関する配慮事項（環境省、2004）の「遺伝的攪乱の防止」およびアマモ類の自然再生ガイドライン（水産庁・マリノフォーラム21、2007）の「アマモの遺伝的多様性を基に設定した種苗の移動禁止ライン」<br/>○クレジットを取得する理由<br/>3海岸地先でのCO2吸収源としてのブルーカーボン生態系の回復や拡大のため、新たなアマモの播種活動の開始を含め、プロジェクトの継続、拡大に活用する。<br/>○クレジットを取得することによる、気候変動緩和策の継続・拡大への具体的な計画や見通し<br/>引き続きCO2吸収源の回復や拡大のため、地引網による生物調査時に食害生物の駆除に努める。3海岸地先でアマモの播種を行い、ブルーカーボン生態系の拡大を図る。</p> |

|                         |  |
|-------------------------|--|
| <p>申請対象期間に実施した活動の概要</p> | <p>①藻場保全・維持活動（地引網による生物調査、潜水調査ほか）<br/> <b>【実施者】</b> NPOアマモ種子バンク、東洋建設株式会社、江井ヶ島漁業協同組合<br/> <b>【活動回数】</b> 9日<br/>                 取組詳細／実施日／参加人数<br/>                 江井島海岸_秋季調査（地引網による生物調査等）／2022. 8. 28／ 8名<br/>                 魚住地先播種事前調査／2022. 11. 25／8名<br/>                 江井島海岸_冬季調査（地引網による生物調査等）／2022. 11. 27／約20名<br/>                 魚住地先播種シート敷設／2022. 12. 14／8名<br/>                 江井島海岸_春季調査（地引網による生物調査等）／中止／－<br/>                 谷八木・江井島・魚住_藻場面積調査（ドローン空撮）／2023. 5. 9／5名<br/>                 江井島海岸_夏季調査（アマモ種子採取、地引網による生物調査等）／<br/>                 2023. 6. 4／約40名<br/>                 谷八木・江井島・魚住_潜水調査／2023. 6. 7-9／延べ24名<br/>                 ②SDGs推進組合として、小学校への質の高い出前授業を実施した。また、アマモ場周辺の生物調査を行った。<br/>                 ②-1地引網による藻場生息魚類のモニタリング<br/> <b>【実施者】</b> 江井ヶ島漁業協同組合<br/> <b>【活動回数】</b> 5日<br/>                 取組詳細／実施日／参加人数<br/>                 地引網生物調査（園田南小学校）／2022. 6. 10／約130名<br/>                 地引網生物調査（明石小学校）／2022. 6. 30／約100名<br/>                 地引網生物調査（二見西小学校）／2022. 10. 5／約100名<br/>                 地引網生物調査（江井島小学校）／2022. 10. 6／約100名<br/>                 地引網生物調査（錦浦小学校）／2022. 10. 14／約100名<br/>                 ②-2藻場保全のための清掃活動・再資源化<br/> <b>【実施者】</b> 江井ヶ島漁業協同組合<br/> <b>【活動回数】</b> 58日<br/>                 取組詳細／実施日／参加人数<br/>                 ①海上清掃（海底ゴミおよび浮遊ゴミ）／2022. 9. 10／約30名<br/>                 ②砂浜・港湾清掃／延べ52日／233名<br/>                 ③海上廃プラごみ再資源化立案／2022. 9. 24-28／約50名</p> |
| <p>プロジェクト実施開始日</p>      | <p>2001年11月～現在</p>   |

|      |                |   |
|------|----------------|---|
| 方法論1 | ①対象生態系面積の算定方法  | <p>【生態系】海草</p> <p>【藻場】アマモ場</p> <p>【構成種】アマモ</p>  |
|      | ②クレジット認証対象期間   | 2022年06月10日～2023年06月09日   |
|      | ③対象とする面積       | <p>【面積】</p> <p>1.517 (ha)</p> <p>【面積の算定根拠】</p> <p>○調査実施日：2023.5.9（ドローンによる空撮）、2023.6.7（潜水士によるコドラート調査） ○対象位置：兵庫県明石市大久保町谷八木地先</p> <p>○面積・被度把握に用いた調査手法：</p> <p>ドローンにより撮影した空中写真と潜水士によるコドラート調査</p> <p>○対象生態系の判断方法と面積・被度階級の判別方法 空中写真から得たオルソ画像に20mメッシュを設け、メッシュごとに潜水調査結果、空中写真から得られる藻場分布状況からアマモの被度1～5を推定した。被度ごとにメッシュ 数をカウントし、被度割合を乗じて、実勢面積を算出した。</p> <p>○活動範囲の判断理由：</p> <p>特に岸沖方向の活動範囲は潜水調査範囲に基づいた。</p> <p>【面積の資料】</p> <p>添付資料2023年度_面積の算定根拠. pdf</p> |
|      | ④吸収係数          | <p>【単位面積あたりの吸収量】</p> <p>4.9</p> <p>【単位面積あたりの吸収量の算定根拠】</p> <p>文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照</p> <p>【単位面積あたりの吸収量の資料】</p> <p>添付ファイルなし</p>   |
|      | ⑤吸収量算定方法       | <p>【計算に利用した式】</p> <p>式1</p> <p>【算定結果（吸収量）】</p> <p>7.433 (t-CO2)</p>   |
|      | ⑥确实性の評価        | <p>【対象生態系面積の評価】</p> <p>90%</p> <p>(面積：1.517 (ha) × 評価：90%)</p> <p>【吸収係数の評価】</p> <p>70%</p> <p>(吸収係数：4.9 × 評価：70%)</p>   |
|      | ⑦調査時に使用した船舶の情報 | <p>【船舶の種類】 船外機船（11kW / 15PS 程度）</p> <p>【台数】 1隻</p> <p>【稼働時間】 4.00 (h)</p> <p>【出力】 30.00 (kW)</p> <p>【燃料の種類】 ガソリン</p> <p>【CO2排出量】 0.058 (t-CO2)</p>  |

|      |                         |   |
|------|-------------------------|---|
| 方法論1 | ⑧ベースラインの設定方法<br>妥当性とその量 | <b>【CO2吸収量】</b><br>0.03 (t-CO2)<br>(面積 : 0.01 (ha) × 評価 : 90%) × (吸収係数 : 4.9 × 評価 : 70%)<br><b>【設定した根拠】</b><br>昨年度申請と同じ2001年11月の谷八木地先での播種によるアマモ場造成時をベースラインとし、2004年1月のグーグルアースの空中写真から設定した。なお、藻場面積の算定方法を昨年度から変更したため、今年度の方法で算定しなおしたが、数値に変更はない。<br><b>【資料】</b><br>添付資料2023年度_ベースライン面積の算定根拠.pdf |
|      | ⑨クレジット認証対象の吸収量          | 4.594 (t-CO2)   |

|                  |            |
|------------------|------------|
| 合計のクレジット認証対象の吸収量 | 4.5(t-CO2) |
|------------------|------------|